

FORWARD

第26期年次報告書

平成18年3月1日から平成19年2月28日まで



特集・対談

株式会社京進 代表取締役社長 立木貞昭 × 清水寺貫主 森清範



株式会社 **京進**
KYOSHIN CO.,LTD.

“心を教える、心を育てる。”「知」と「心」の

株式会社京進 代表取締役社長 立木 貞昭

×

清水寺貫主 森 清範

教育のあり方について、心の育成について、日本の宗教界を代表する清水貫主には、以前京進の保護者対象「教育講演会」でもお話し頂きました。

(立木)

当社は、平成17年12月の事件後、すべての安全対策の見直しを図り、再発防止、未然防止の仕組みづくりを進めてまいりました。また、お客様相談センターを設置して、社員や講師、生徒や保護者など様々な方から声を聞き、迅速に対応できる体制を作りました。そして、これを契機に安全対策が日本で一番進んだ企業に生まれ変わるために、安全対策の強化と倫理観の高揚、経営品質の向上を信頼回復の鍵として、全従業員が参画して日常業務、プロジェクト活動に取り組んでいるところです。

(森)

現代は、「教」と「育」の間に大きな距離があると思います。学校で、家庭で、塾で、子供たちに教える内容は年々難しく、過剰になっています。ところがそれで子供たちが育っているかという育ってはおりません。あたたかく、やさしい人間の心は、育てつくっていかねばならないものです。一方的に教えるのではなく、教えられる側の子供たちをしっかりと見つめ、その意見を受け止めることがもっとも大切ではないかと思います。高度な知識や技術を学ぶこと、身に付けることは、日本全体の国力の面からも大切なはずで。同時にその対極にある、心を教えること、心を育てることはもっと大切です。知識偏重でない、心にゆとりのある社会をつくるためにも、知識と心のバランスが取れた教育の取り組みが今こそ求められているのではないのでしょうか。

(立木)

当社は、接する人すべてを大切にしていくという「ひとりひとりを大切に」という考え方および「謙虚な生き方」を、人材育成、心の育成の基本に掲げています。子供

代表取締役社長
立木 貞昭

バランスがとれた教育を

寺貫主 森清範師を迎え、当社代表取締役 立木貞昭と語って頂きました。

たちが持っているひとりひとり異なる個性をひとつの人格として伸ばし、輝かせたい。そのためにきちんと挨拶ができる、謙虚な心を持ち、感謝をすることができる、そういう子供たちを育てたいと考えています。その一環として、「自分から先に頭を下げて挨拶しよう」という「挨拶運動」を全社的に進めています。現場の先生が率先する形で、また社員同士でも上に立つものから先に頭を下げて挨拶することを「京進の文化」として位置づけ、運動を展開しているところです。きちんと挨拶ができる子供が勉強もできるということは、これまでの経験から分かってきました。

(森)

学力は、普段の生活行動や日常生活と実は深い部分でつながっています。学力も、礼儀をわきまえる豊かな心も備えてこそ初めて人間といえます。片一方だけではだめなんです。日常生活の基本となる挨拶においても、なぜ挨拶をするのか、なぜ先に挨拶をするのかを考えることはとても重要だと思います。それがないと、形が形で終わってしまう。挨拶をすること、声をかけることは、相手に対して敬意をあらわし、一人の人格として相手を認めること、人間として認めていることにつながります。先日、テレビで見た朝の登校風景には、大きな感銘を受けました。その先生は子供たちにおはようと声をかけるだけでなく、ひとりひとりの子供たちと向き合い、子供たちの手をしっかりと握り、笑顔で声をかけておられていました。人間の心と心がふれあう、教育の原点を見つけた思いがしました。学力も心も両立して向上させていくところに本当の意味での教育があり、こうした教育を通して人間としての成長があり、実力が付いてくるのですから。

清水寺貫主
森 清範

昭和30年4月
清水寺貫主 大西良慶和尚のもと得度 入寺
昭和63年4月
清水寺貫主 北法相宗管長就任
全国清水寺ネットワーク会議代表
京都仏教クラブ会長
洛陽三十三所観音霊場会会長
文人連盟副会長
社会福祉法人衆善会名誉顧問
財団法人京都市文化観光資源保護財団評議員
著書「心を活かす」「心の花を咲かそう」
「一口説法 心を練る」(以上 講談社)
「人のこころ観音の心」(NOMA総研)
「一文字説法 観音のこころ」(佼成出版社)
「清水寺まんだら」(春秋社) 他

(立木)

当社は、学習塾ですから第一義的には学力を付けることが本来の仕事です。またその仕事を通じて地域社会の教育に貢献したいと思っています。ですから志望合格や成績にもこだわっているのですが、当社は知識偏重型の指導は決して行っておりません。学力をつけるとともに、勉強での達成体験を通じて自分自身を高め、自分の心に打ち克つ強い心を持った子供たちの育成を目指してきました。それに加えて、強さだけでなく優しい心を持つ子供を育てる取り組みにも挑戦しています。そして学習指導だけではなく、人間的にも成長できると地域で評価される塾でありたいと考えています。



(森)

教えられる子供たちの側から言えば、先生を通して習うわけですから、先生の人間性によってその教科が好きにも嫌いにもなる。また将来につながる研究テーマや職業に興味を持つきっかけにもなる。指導する先生は子供たちの将来を左右する非常に重要な役割を担われているわけです。教える技術よりも、むしろ先生の人柄や人間性の方が後々まで記憶に残る。私の場合

を振り返ってもその先生に何を習ったかは思い出せなくても先生のあだ名だけはしっかりと覚えている。先生という役割には、それだけ深く重いものがあります。

(立木)

今、当社は集団指導だけでなく、個別指導にも力を入れています。生徒二人に一人の先生が付く形で、そのため多くの先生や講師を必要としています。現在では、社員と講師を含めて約5000人を超える規模にまで膨らんでいます。そのうち社員に対しては私からの講話という形で思いを伝え、コミュニケーションを図るシステムで行っています。しかしながら、個別指導の先生方の多くを占める講師の方々に対しては、指導面ではなかなか行き届かないのが現状です。人間と人間が接する中で、人間を敬う気持ちを自然に育むにはどのようにすればよいのか、教育という分野の役割の重さを再認識する中で、現在、すべての講師を対象にコミュニケーションを深め、面談をする対策を進めています。

(森)

心を学び、心を育てることが忘れられた今の世の中では、互いの信頼感が希薄になっています。人間が人間を敬うとは、どういうことでしょうか。この世の中にあるすべての物には命が宿っています。物という字のうしへんには「貴重な」という意味があり、かけがえのない事柄を表します。物にはカタチと、そこに息づく命、つまり古代からの自然観、生命観があります。こうした自然界の時間と空間が交わる場所に、私たちは存在しているのです。親のない子供はなく、親にも親がある。命が

人間性教育でも地域から評価される塾をめざして。



「人を敬う、人を学ぶ」そこに教育の原点がある。

連綿とつながっていく、こうした命の秩序を見つめ直すことが、人間の心と心のふれあいを回復するひとつの糸口になると考えます。今の時代は、病院で生まれ病院でなくなることが当たり前で、子供のころから、家庭の中で身近に人が亡くなっていく姿を見る機会が失われ、そのため、命がかけがえのないもの、尊厳なものであるということが見えなくなっています。この命の実体験がないことが命を粗末に扱う背景にあると考えます。生きていることの実体験を通して、命の尊さを知ることが何よりも大切だと感じます。それを通して、自分を尊ぶことは人を尊ぶことだということが自然に分かってくるのです。

(森)

人間は完全ではありません。不完全であるからこそ道が見えるのです。自分の至らなさに気がつき、直していくことでさらなる道を目指すことができます。不完

全はむしろ大いなる未来へのスタート台といえるでしょう。知識の部分で学習塾をリードされている京進さんが心の分野でも日本を代表する学習塾としてこれからも力を発揮されることを期待します。知も心も備えた新しい次代を担う子供たちをしっかりと育成して欲しいと願っています。



「本気の教育」で、地域から信頼・評価される塾を目指

質にこだわる 集まる塾へ

27期は、引き続き内部充実を図るとともに、『①「本気の教育」で自立型人間を育てる ②安全対策の強化・改善により、安全対策への評価で地域No.1を目指す』という方針を掲げています。京進では、今までも「学力の向上」「合格の実現」だけでなく、あいさつ運動やしつけの指導にも取り組んできました。今期は、「本気の教育」で、生活指導、学習指導を行い、自立型人間の育成を進めてまいります。この取り組みと安全対策については、今後も強化・改善し、徹底的に取り組むことにより、他社との差別化を図るとともに、地域から信頼・評価される塾を目指して行きたいと思っております。



代表取締役社長
立木 貞昭

26期通期の業績

合格実績の結果としては、全国屈指の難関校である洛南高校へ9年連続最多合格者数を確保したのをはじめとして、その他の私立中高、地域の有力公立高校でもトップ合格数を維持することができました。大学入試では、東大・京大現役合格で45名、医学部医学科で14名の現役合格を実現しました。また、新規参入した小学入試では第1期生全員が第一志望校合格を果たすという結果を残すことができました。生徒数では、前期比101.0%となりました。その結果、当期の売上高は12,265百万円(前期比2.8%増)、人件費等の増加により、経常利益339百万円(同64.6%減)、当期純利益は101百万円(同75.4%減)となりました。

します。



新設校～中国広州への進出



教室展開については、小中部6校（うち中学入試専門校1校、中国における京進広州校1校）、個別指導部12校、計18校の新設開校を行いました。また、個別指導教室「京進スクール・ワン」のフランチャイズについては、26校が新設開校、1校をFC事業部への直営化、2校を閉鎖し、合計58校となっております。なお、広州校については、自動車業界を始めとする日本の大手企業の中国進出に伴う帰国子女への教育ニーズの高まりもあり、順調な集客が進んでおります。（場所は、広州インターナショナル・トレード・センター22階にあり、日本人が居住する場所の中心です。）

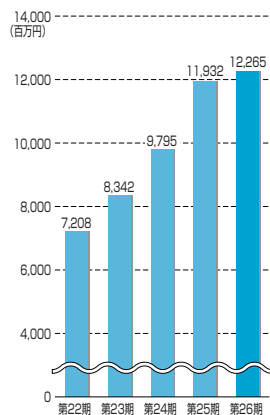
27期の展開

顧客満足度向上を進めるため、前年に引き続き教室展開のペースを落とし、小中部で5校の新設開校のみとし、内部の充実に努める所存であります。その他、個別指導教室「京進スクール・ワン」のフランチャイズ教室については40教室の開校を予定しています。また、順調な集客で第4分校まで設置している高等部トップΣ京都駅前校では、京都駅前に収容人数1,000名規模の専用自社ビルの建設を進めています。竣工は今秋を予定しており、より多くの高校生への教育サービスを進めてまいります。

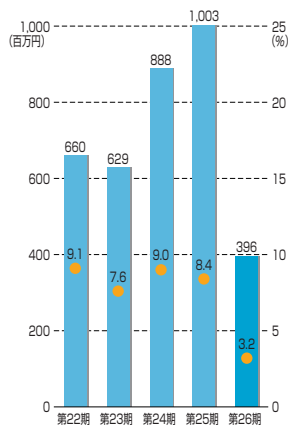


営業成績の推移

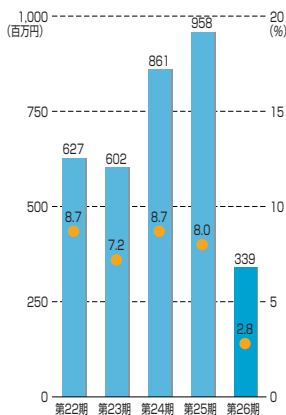
■ 売上高



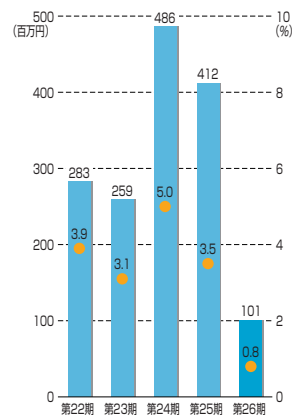
■ 営業利益・売上高営業利益率



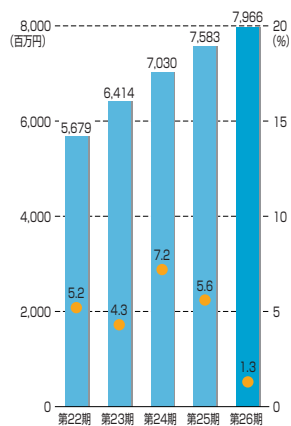
■ 経常利益・売上高経常利益率



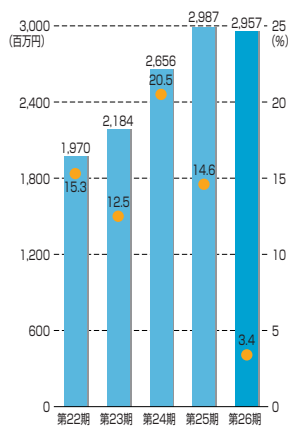
■ 当期純利益・売上高当期純利益率



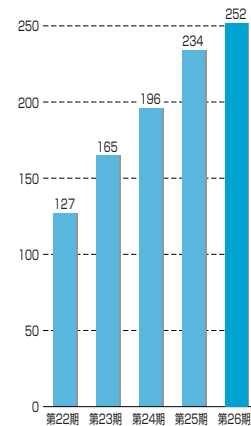
■ 総資産・総資産当期純利益率 (ROA)



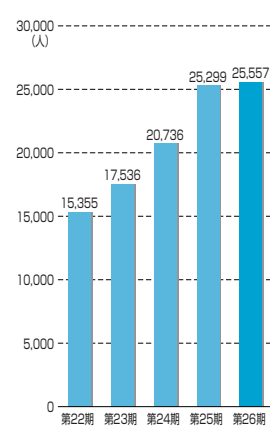
■ 純資産・純資産当期純利益率 (ROE)



■ 事業所数推移



■ 生徒数推移



安全への取り組み『従業員の資質の向上』

施設・設備などのハード面における安全対策はすべて完了し、日報での報告・データベースでの情報共有も、日々、運用されています。今後、最も注力し継続的に進めていくのは、ソフト面での安全対策である従業員の資質の向上です。特に今年は、全従業員への研修の充実、防災・防災、救命・救急の訓練等を重点課題として取り組みます。

■ 昨年までの取り組み

26期は「危機察知能力向上研修」として、校長等に対して、カウンセリング方法、感受性訓練、コミュニケーション能力の向上を図るための実習研修を行いました。また、臨床心理士の先生に京進オリジナルのプログラムを作成してもらい、全従業員に対して、ストレスマネジメントや心理的危機のサイン、対人トラブルと対処法、カウンセリングの知識をつけるような講義研修を実施しています。

■ 27期からの従業員研修について

27期から3年計画でEAP (Employee Assistant Program/従業員支援プログラム) 体制をつくり、従業員の心のケア、問題発見と解決を徹底してまいります。

| | |
|------------------------|--|
| ストレスチェックの実施と結果のフィードバック | 全従業員対象。結果とコメントにより自分自身の心の状態を知ってもらう。 |
| カウンセリングスキルの再講義研修 | 全従業員対象。26期の再学習を行う。内容は、「ストレスマネジメント」「心理的危機のサイン」「対人トラブルと対処法」「カウンセリングの知識」。 |
| こころづくりルーティン | 全従業員対象。自立型人間育成によるメンタルヘルス向上を目指す活動を行う。 |
| メンタルヘルス研修 | 校長等対象。臨床心理士による研修会。26期の内容をより実践的にした内容で行う。 |

■ 28期からの取り組み内容

- メンタルヘルス・コンサルテーション
部下のメンタルヘルスに関して、どのように対処すべきか、臨床心理士に個別相談できる体制づくり
- 一般相談窓口の提供
社内カウンセラーの養成と、従業員からのカウンセリング窓口を設置
- 家族をふくめたEAP体制づくり
- 職場復帰支援プログラムの作成
- 医師や弁護士等との外部ネットワーク構築

その他の従業員の資質の向上に関する取り組み

■ 採用

- 厳しい採用基準
採用については、基本理念の理解と共鳴の確認、適性テスト、学科試験、面接、適性テストに基づいた二次面接を行い、厳しい基準のもとで採用を行っています。
- 採用担当者の適性判断
問い合わせや電話連絡時にも、言動や行動を意識的にチェックして適性判断をしています。
- 採用時の提出物
在学証明書・大学卒業証明書・卒業証書、「賞罰・休停学確認書」の提出を義務づけています。

■ 継続的な適性判断

- 適性テスト
採用後も、年1回以上の適性テストを実施し、適性判断を行っています。
- 面談
社員については、上長及び経営幹部による面談、講師については校長等による年2回以上の面談を行っています。
- 確認書
法令遵守だけでなく、生徒等のメールのやり取りなど、「京進倫理行動指針」の遵守についての確認書を提出してもらっています。

■ コンプライアンス(倫理行動)の徹底

- 倫理行動指針
大切な子どもたちをお預かりする企業として、「京進倫理行動指針」を設け、全従業員に徹底しています。「生徒の安全」「教育に関わるものとしての高いモラルに基づく行動」「クレームや要望についての情報共有・再発防止・未然防止」「個人情報の管理の徹底」「地域社会との協調」等を定め、全従業員が携帯する「京進ハンドブック」に掲載しています。
- 法令遵守
コンプライアンスの基本は、「法律や社内規程等で定められたことを守る」とことと「社会の常識に従って行動する」とことであるという認識のもと、「法令遵守」の徹底のため、違反をした場合の罰則等についても「京進ハンドブック」に掲載しています。
- コンプライアンス研修
全部署にて、「京進ハンドブック」を使い、コンプライアンスと倫理行動の徹底についての研修を行っています。
- 方針や価値観の浸透
安全面での方針や価値観については、面談を通じて浸透を図るほか、経営トップによる講話の配信、メッセージの発信を行っています。

2007年春合格実績

今春も全国屈指の難関校へ連続最多合格者数を確保しました。

●高校入試で、圧倒的な合格数No.1の堅持

・洛南高校121名 <9年連続トップ合格者数>
洛南高校は、17年連続京大合格者No.1の高校

●中学入試の大躍進

・灘2名、開成3名、ラ・サール20名
・洛南高附属、洛星、東大寺学園61名<前年比165%>
・同志社中・立命館中139名 <同志社中75名・前年比142%> <立命館中64名・前年比152%>
・愛知難関中学へ241名
東海・滝・南山(男・女)・名古屋・愛知淑徳・海陽 <前年比110%>



大学現役合格

| | |
|----------------------|------|
| 東大・京大 | 45名 |
| 同志社大・立命館大 関西大・関学大 | 956名 |
| 京都産業大・龍谷大 近畿大・甲南大 | 905名 |
| 国公立大 | 578名 |

公立中学合格

| | |
|------------|-------------------|
| 京都府立洛北高附属中 | 25名 (合格占有率 31.3%) |
| 京都市立西京高附属中 | 23名 (合格占有率 19.2%) |
| 京都府園部高附属中 | 2名 (合格占有率 5.0%) |
| 滋賀県立守山中 | 20名 (合格占有率 25.0%) |
| 滋賀県立河瀬中 | 26名 (合格占有率 32.5%) |
| 滋賀県立水口東中 | 25名 (合格占有率 31.3%) |

私立中学・高校合格

| | |
|----------------------|------|
| 灘・開成 ラ・サール系・東大寺中高 | 53名 |
| 同志社系中高 | 292名 |
| 立命館系中高 | 306名 |
| 京都女子中高 | 174名 |
| 東海・滝中高 | 153名 |

公立高校合格

| | |
|-----------------|----------------------|
| 膳所高校 | 159名 (合格占有率 36.1%) |
| 彦根東高校 | 187名 (合格占有率 51.9%) |
| 滋賀県立進学高校11校 | 1,021名 (合格占有率 30.4%) |
| 堀川高校探究学科群 | 45名 (合格占有率 28.1%) |
| 嵯峨野高校京都こすもす科 | 50名 (合格占有率 25.0%) |
| 西京高校エンタープライジング科 | 49名 (合格占有率 30.6%) |
| 京都府公立高校Ⅱ類系 | 280名 (合格占有率 10.0%) |

社会貢献

地球市民の一員として、幅広い国々で学び合いの輪を広げています。

■ 海外支援活動

平成11年から続けているミャンマーへの聾唖学校への支援について、今年は、古くなった職業訓練施設の機器類を新しくするための寄付を行います。多くの聾唖学校の生徒たちが社会で活躍できるための支援を、今後も続けてまいります。

■ ころを育てる本気の生活指導

平成19年2月4日、原田隆史先生を招いて、保護者対象の教育講演会を開催し、300名を超える参加者がありました。原田先生は、無名の公立中学校陸上部を「7年間で13回の日本一」の常勝チームに育て上げた方です。原田先生が提唱される「主体性をもって物事に取り組むことができる自立型人間を育成する」という考えは、当社の教育理念に通じるものです。京進でも、「“ころを育てる”本気の生活指導」が子どもたちの学力を大きく伸ばす基本であると考えています。

■ 希望の義足



平成19年4月8日、NGO法人「ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」(以下、「ワンラブ」)の代表を招き、講演会を行いました。「ワンラブ」は、アフリカのルワンダ共和国で義肢(義足)製作所を開設し障害を持つ人びとを支援し続けている組織です。講演会では、虐殺から13年が経ち、復興へ向けて努力を続けるルワンダの現状と、「ワンラブ」の活動を、広く紹介しました。京進では、昨年から各校の貸し出し図書に、「ワンラブ」の活動を紹介した「希望の義足」を設置しています。(書籍購入費から一定額が自動的に寄付されます。)

※ルワンダ共和国では、平成6年に起こった大虐殺のために100万人以上の人たちが殺され、80万人が精神的、肉体的に障害を負いました。現在、ルワンダの戦争は終結し、政府や人びとが力を出し合って復興に向けて取り組んでいます。ワンラブのNGO活動は、「アンビリハボー」や「プロジェクトX」等のメディアでも紹介されています。

Topics

■ 英会話【京進ユニバーサルキャンパス】 「ちびっ子イングリッシュコンテスト」で快挙！

平成19年3月18日、KBS京都主催「第17回ちびっ子イングリッシュコンテスト」が行われました。このコンテストは、約500人の中から一次審査をパスした112名の小学生以下の子どもたちが、英語を使っているスピーチを披露し、競い合うものです。ユニバーサルキャンパスからは13名が出場し、最優秀賞(2名)と優秀賞(5名)を受賞しました!(最優秀賞は、5年連続でユニバーサルキャンパスの生徒が受賞しています。)



■ 知名度向上へ

平成19年春、個別指導教室「京進スクール・ワン」のTVコマーシャルを行いました。



財務情報 (要約)

■ 貸借対照表

(単位：千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|-----------------|------------------|------------------|
| | (平成19年2月28日現在) | (平成18年2月28日現在) |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 1,494,518 | 1,499,706 |
| 現金及び預金 | 761,858 | 859,062 |
| 売掛金 | 306,478 | 225,886 |
| 商品 | 97,752 | 79,946 |
| 貯蔵品 | 16,360 | 26,118 |
| 前払費用 | 165,043 | 157,603 |
| 繰延税金資産 | 132,543 | 146,922 |
| 短期貸付金 | 4,006 | 1,102 |
| その他 | 38,627 | 17,187 |
| 貸倒引当金 | △28,152 | △14,124 |
| 固定資産 | 6,472,382 | 6,084,228 |
| 有形固定資産 | 4,072,275 | 3,806,447 |
| 建物 | 2,012,743 | 2,068,364 |
| 構築物 | 131,825 | 134,900 |
| 車両及び運搬具 | 6,698 | 2,241 |
| 器具及び備品 | 294,756 | 327,050 |
| 土地 | 1,245,091 | 1,245,091 |
| 建設仮勘定 | 381,160 | 28,799 |
| 無形固定資産 | 267,843 | 285,597 |
| ソフトウェア | 206,388 | 134,089 |
| その他 | 61,454 | 151,507 |
| 投資その他の資産 | 2,132,263 | 1,992,183 |
| 投資有価証券 | 188,427 | 197,630 |
| 関係会社株式 | 10,000 | 20,000 |
| 関係会社出資金 | 87,641 | 65,251 |
| 長期貸付金 | 12,378 | 2,861 |
| 関係会社長期貸付金 | 55,735 | 52,509 |
| 長期前払費用 | 74,873 | 64,006 |
| 繰延税金資産 | 468,934 | 387,502 |
| 差入保証金及び敷金 | 1,247,295 | 1,191,631 |
| その他 | 36,576 | 36,500 |
| 貸倒引当金 | △49,600 | △25,709 |
| 資産合計 | 7,966,900 | 7,583,934 |

(単位：千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|-----------------|------------------|------------------|
| | (平成19年2月28日現在) | (平成18年2月28日現在) |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 2,635,430 | 2,607,808 |
| 買掛金 | 66,117 | 56,047 |
| 短期借入金 | 969,000 | 600,000 |
| 1年以内返済予定長期借入金 | 593,054 | 624,460 |
| 未払金 | 509,003 | 593,027 |
| 未払費用 | 75,379 | 108,489 |
| 未払法人税等 | 35,872 | 244,462 |
| 未払消費税等 | 79,074 | 97,645 |
| 前受金 | 41,887 | 43,896 |
| 賞与引当金 | 211,577 | 191,788 |
| その他 | 54,464 | 47,990 |
| 固定負債 | 2,373,993 | 1,988,666 |
| 社債 | 200,000 | 200,000 |
| 長期借入金 | 1,228,986 | 991,115 |
| 退職給付引当金 | 750,349 | 635,481 |
| 役員退職慰労引当金 | 187,057 | 160,377 |
| その他 | 7,600 | 1,693 |
| 負債合計 | 5,009,423 | 4,596,474 |
| (資本の部) | | |
| 資本金 | — | 327,893 |
| 資本剰余金 | — | 263,954 |
| 資本準備金 | — | 263,954 |
| 利益剰余金 | — | 2,342,481 |
| 利益準備金 | — | 41,000 |
| 別途積立金 | — | 1,210,000 |
| 当期末処分利益 | — | 1,091,481 |
| 株式等評価差額金 | — | 54,526 |
| 自己株式 | — | △1,395 |
| 資本合計 | — | 2,987,459 |
| 負債・資本合計 | — | 7,583,934 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 2,908,416 | — |
| 資本金 | 327,893 | — |
| 資本剰余金 | 263,954 | — |
| 資本準備金 | 263,954 | — |
| 利益剰余金 | 2,317,965 | — |
| 利益準備金 | 41,000 | — |
| その他利益剰余金 | 2,276,965 | — |
| 別途積立金 | 1,310,000 | — |
| 繰越利益剰余金 | 966,965 | — |
| 自己株式 | △1,395 | — |
| 評価・換算差額等 | 49,060 | — |
| その他有価証券評価差額金 | 49,060 | — |
| 純資産合計 | 2,957,477 | — |
| 負債・純資産合計 | 7,966,900 | — |

損益計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|---------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | (平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで) | (平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで) |
| 売上高 ※1 | 12,265,785 | 11,932,422 |
| 売上原価 ※2 | 8,891,525 | 8,358,430 |
| 売上総利益 | 3,374,260 | 3,573,992 |
| 販売費及び一般管理費 ※2 | 2,977,767 | 2,570,327 |
| 営業利益 | 396,492 | 1,003,664 |
| 営業外収益 | 16,104 | 11,848 |
| 営業外費用 | 72,641 | 56,518 |
| 経常利益 | 339,955 | 958,994 |
| 特別損失 | 63,203 | 278,595 |
| 税引前当期純利益 | 276,752 | 680,398 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 238,742 | 460,339 |
| 法人税等調整額 | △63,316 | △191,997 |
| 当期純利益 | 101,326 | 412,056 |
| 前期繰越利益 | — | 679,425 |
| 当期末処分利益 | — | 1,091,481 |

損益計算書のポイント

- ※1 生徒数(期中平均生徒数)が前期比101.0%となり、その結果、売上高は12,265百万円(前期比102.9%)となりました。
- ※2 前期に比べて売上原価は533百万円増加して8,891百万円となり、販売費及び一般管理費は、407百万円増加して、2,977百万円となりました。主な原因は人件費が売上原価で352百万円増加し、販売費及び一般管理費で208百万円増加したこととあります。

株主資本等変動計算書

(平成18年3月1日から平成19年2月28日まで)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | 評価・換算差額等 | | | 純資産 合計 | |
|-----------------------------|---------|-----------|-------------|-----------|-------------------|-------------|-------------|----------|------------|----------------------|-----------|--------------------|
| | 資本剰余金 | | | 利益剰余金 | | | | 自己株式 | 株主資本 合計 | その他 有価証券 評価差額金 | | 評価・換 算差額等 合計 |
| | 資本金 | 資本 準備金 | 資本剰余 金合計 | 利益 準備金 | その他利益剰余金 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | 利益剰余 金合計 | | | | | |
| 平成18年2月28日残高 | 327,893 | 263,954 | 263,954 | 41,000 | 1,210,000 | 1,091,481 | 2,342,481 | △1,395 | 2,932,933 | 54,526 | 54,526 | 2,987,459 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | — | — | — | — | 100,000 | △100,000 | — | — | — | — | — | — |
| 剰余金の配当 | — | — | — | — | — | △125,842 | △125,842 | — | △125,842 | — | — | △125,842 |
| 当期純利益 | — | — | — | — | — | 101,326 | 101,326 | — | 101,326 | — | — | 101,326 |
| 株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額) | — | — | — | — | — | — | — | — | — | △5,466 | △5,466 | △5,466 |
| 事業年度中の変動額合計 | — | — | — | — | 100,000 | △124,516 | △24,516 | — | △24,516 | △5,466 | △5,466 | △29,982 |
| 平成19年2月28日残高 | 327,893 | 263,954 | 263,954 | 41,000 | 1,310,000 | 966,965 | 2,317,965 | △1,395 | 2,908,416 | 49,060 | 49,060 | 2,957,477 |

連結財務諸表(ご参考)

■ 要約連結貸借対照表

(単位:千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|----------|----------------|----------------|
| | (平成19年2月28日現在) | (平成18年2月28日現在) |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 1,648,749 | 1,644,829 |
| 固定資産 | 6,365,472 | 5,964,212 |
| 資産合計 | 8,014,221 | 7,609,042 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 2,638,861 | 2,630,294 |
| 固定負債 | 2,373,993 | 1,988,666 |
| 負債合計 | 5,012,854 | 4,618,960 |
| (資本の部) | | |
| 資本合計 | — | 2,990,081 |
| 負債・資本合計 | — | 7,609,042 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 2,938,860 | — |
| 評価・換算差額等 | 61,883 | — |
| 少数株主持分 | 622 | — |
| 純資産合計 | 3,001,367 | — |
| 負債・純資産合計 | 8,014,221 | — |

■ 要約連結損益計算書

(単位:千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|--------------|---------------------------|---------------------------|
| | (平成18年3月1日から平成19年2月28日まで) | (平成17年3月1日から平成18年2月28日まで) |
| 売上高 | 12,381,224 | 12,026,721 |
| 売上原価 | 8,984,484 | 8,440,937 |
| 売上総利益 | 3,396,739 | 3,585,783 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,008,527 | 2,589,835 |
| 営業利益 | 388,212 | 995,947 |
| 営業外収益 | 16,529 | 15,020 |
| 営業外費用 | 49,020 | 35,008 |
| 経常利益 | 355,721 | 975,959 |
| 特別利益 | 11,703 | — |
| 特別損失 | 63,476 | 272,675 |
| 税金等調整前当期純利益 | 303,947 | 703,284 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 245,295 | 463,422 |
| 法人税等調整額 | △72,831 | △182,456 |
| 当期純利益 | 131,484 | 422,318 |

■ 要約連結株主資本等変動計算書

(平成18年3月1日から平成19年2月28日まで)

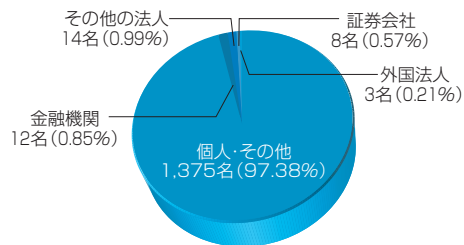
(単位:千円)

| | 株主資本 | | | | 評価・換算差額等 | | | | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|---------------------------|---------|---------|-----------|--------|-----------|--------------|----------|------------|--------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 評価・換算差額等合計 | | |
| 平成18年2月28日残高 | 327,893 | 263,954 | 2,342,767 | △1,395 | 2,933,218 | 54,526 | 2,336 | 56,862 | — | 2,990,081 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | △125,842 | — | △125,842 | — | — | — | — | △125,842 |
| 当期純利益 | — | — | 131,484 | — | 131,484 | — | — | — | — | 131,484 |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | — | — | — | — | — | △5,466 | 10,487 | 5,021 | 622 | 5,644 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | — | 5,641 | — | 5,641 | △5,466 | 10,487 | 5,021 | 622 | 11,285 |
| 平成19年2月28日残高 | 327,893 | 263,954 | 2,348,408 | △1,395 | 2,938,860 | 49,060 | 12,823 | 61,883 | 622 | 3,001,367 |

- 発行可能株式総数 22,640,000株
- 発行済株式の総数 8,396,000株
- 株主数 1,412名
- 大株主

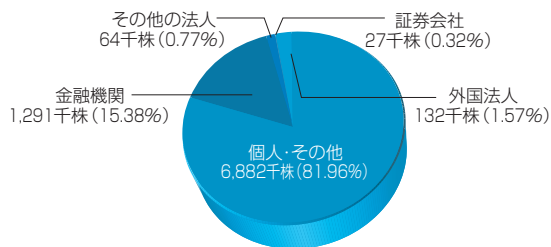
| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|-------------------------|-----------|----------|
| | 持株数(株) | 議決権比率(%) |
| 立 木 貞 昭 | 2,637,600 | 31.48 |
| 京 進 社 員 持 株 会 | 597,000 | 7.12 |
| 株 式 会 社 三 菱 東 京 UFJ 銀 行 | 342,000 | 4.08 |
| 立 木 泰 子 | 254,800 | 3.04 |
| 立 木 康 之 | 254,400 | 3.03 |
| 白 川 寛 治 | 250,000 | 2.98 |
| 株 式 会 社 京 都 銀 行 | 208,000 | 2.48 |
| 株 式 会 社 池 田 銀 行 | 208,000 | 2.48 |
| 株 式 会 社 滋 賀 銀 行 | 206,000 | 2.45 |
| 立 木 里 実 | 200,000 | 2.38 |

■ 所有者別株主分布



合計：1,412名

■ 所有者別株式数分布



合計：8,396千株

■ 事業所

| | 京都 | 滋賀 | 大阪 | 兵庫 | 奈良 | 愛知 | 三重 | 岐阜 | 埼玉 | 千葉 | 東京 | 神奈川 | 長野 | 石川 | 岡山 | 広島 | 香川 | 徳島 | 福岡 | 熊本 | 鹿児島 | 海外 | 計 | |
|--------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 小 中 部 京 進 | 30 | 28 | 5 | | 5 | 11 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 83 |
| 個別指導部 京進スクール・ワン | 34 | 20 | 35 | 21 | 16 | 15 | 1 | | | 1 | 3 | 1 | | 1 | 1 | 2 | 1 | | 2 | 1 | | | | 155 |
| FC事業部直轄 京進スクール・ワン | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 高 校 部 京 進 高 校 部 | 5 | 4 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 |
| 英会話事業部 ユニバーサルキャンパス | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 家庭教師事業部 京進プリバータ | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| Net 学習事業部 京進 e-DES | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 直営計 | 73 | 53 | 41 | 21 | 21 | 27 | 1 | 1 | | 2 | 3 | 1 | | 1 | 1 | 2 | 1 | | 2 | 1 | | 3 | 255 | |
| FC 事業部 京進スクール・ワン | 3 | 3 | 9 | 1 | 2 | 9 | | | | 1 | 2 | 8 | 8 | 1 | | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | | | 58 |
| 京進ブランド計 | 76 | 56 | 50 | 22 | 23 | 36 | 1 | 1 | 1 | 4 | 11 | 9 | 1 | 1 | 1 | 5 | 3 | 2 | 4 | 2 | 1 | 3 | | 313 |

*上記には、子会社ドイツデュッセルドルフ校、香港校、中国広州校を含んでいます。

株主メモ

- 事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで
 - 定時株主総会の基準日 2月末日
 - 期末配当の基準日 2月末日
 - 中間配当を行う場合の基準日 8月31日
 - 定時株主総会 5月
 - 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
 - 同 事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
 - 同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
 - 郵便物送付先 大阪東郵便局私書箱第455号 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
 - 電話照会先 0120-094-777
- 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。
- 電話（通話料無料）0120-244-479（本店証券代行部）
0120-684-479（大阪証券代行部）
- インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- 公告方法 日本経済新聞に掲載いたします。
- インターネットホームページ <http://www.kyoshin.co.jp/>

会社概況（平成19年2月28日現在）

- 商号 株式会社京進
KYOSHIN CO., LTD.
- 本社所在地 〒600-8177
京都市下京区烏丸通五条下る大阪町 382-1
Tel. 075-365-1500(代表)
- 創業 昭和50年6月
- 設立 昭和56年4月2日
- 資本金 327,893千円
- 役員
代表取締役社長 立木 貞昭
専務取締役 白川 寛治
取締役 土坂 義高
取締役 高橋 良和
取締役 樽井 みどり
取締役 福澤 一彦
常勤監査役 福盛 貞蔵
監査役 中元 視暉輔
監査役 尾川 宣之
- 従業員 742名
(出向社員11人を含んでおります。)

当社に関する情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kyoshin.co.jp/>



本社 〒600-8177 京都市下京区烏丸通五条下る大阪町 382-1
TEL 075-365-1500(代表) FAX 075-365-1511(代表)